

新春特大!
大型プロジェクト案件紹介

過密するタンソンニャット国際空港と ロンタン新国際空港計画の行方(前編)



取材協力、資料提供: JICAベトナム事務所
日本空港コンサルタンツ(JAC)

タンソンニャット国際空港はHCM市は勿論ベトナムの玄関口として毎年多くの旅行者、出張者に利用されている場所で、皆様必ず一度は利用されているのではないのでしょうか?

急増する旅客需要に対応するために最大限700万人規模の旅客に対応できる国際旅客ターミナル及び付帯施設が2007年に完成しました。しかし、旅客需要は当初の予測を大きく上回る形で推移しており、今後タンソンニャット国際空港だけでは、旅客需要に対応することが難しくなることが予想されており、ベトナム政府はタンソンニャットの処理能力が限界を迎える2020年を目処にロンタン国際空港を建設することを決定しています。

今回は、JICAベトナム事務所様及び日本空港コンサルタンツ様のご協力により、タンソンニャット国際空港ターミナルビル建設工事の概要とロンタン国際空港の計画の必要性についてご紹介いたします。

タンソンニャット国際空港はホーチミン市内中心部から北約7kmほどの場所に位置しており、非常に利便性の高い空港となっています。

また、ホーチミン市はベトナム南部の主要経済地域の中心地であり、ベトナムの経済発展と共にタンソンニャット国際空港の利用価値は益々高まっています。

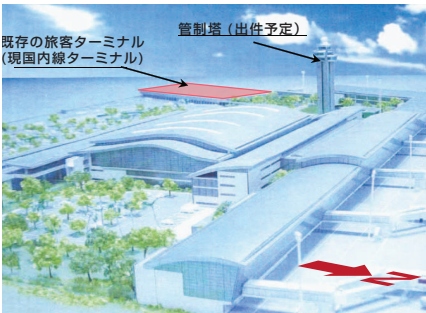
2001年のベトナム国運輸交通開発戦略調査及び国際航空運送協会の予測によるとタンソンニャット国際空港の国内・国際旅客数が2000年の370万人から2005年に590万人、2015年に1200万人、2020年には1500万人に達すると見込まれていました。

当時の既存の空港施設では国際・国内線合わせて年間500万人程度の利用が限界とされており、近い将来の利用者増を見越して、既存ターミナルを国内線専用とし、新たに国際線旅客ターミナルが建設されました。

このタンソンニャット新国際ターミナル建設工事は2004年9

月にスタートし、2007年7月に完了しています。

新ターミナルの概要は右の通りです。



タンソンニャット国際空港ターミナルビル外観



入り口風景(2007年9月の完成直前)



チェックインカウンター
(2007年9月完成直前)

- ◆ 工事概要
 工事場所: ベトナム ホーチミン市
 発注者: 南部空港会社 Southern Airport Corporation(SAC)
 資金源: 国際協力機構(JICA) 総工事費: 約200億円
 設計者: JAPAN Airport Consultants, Inc.(JAC)
 請負方式: JV---KTOMJV
 (鹿島28%・大成24%・大林24%・前田24%)
 工期: 2004年9月14~2007年7月末
- ◆ 計画概要: (2015年目標)
 年間乗客数: 700万人
 一日乗客数: 2,100人 一日発着回数: 136
- ◆ 建物概要:
 規模: RC造(屋根R造) 地上4階
 建築面積: 30,127㎡ 延床面積: 99,648㎡
 敷地面積: 153,600㎡ 最高高さ: 24.5m
- ◆ 工事特徴:
 ホーチミン市内の既存の国際空港に建設される、空港の新ターミナル建設工事である。ターミナルビル建築工事と設備工事・空港特殊設備・下水処理施設・外構工事などターミナルビル新設に関する工事が全てJV請負範囲となっている。

タンソンニャット国際空港は2010年に国際旅客703万人、国内旅客803万人、航空貨物35万トンの実績がありますが、これは2001年時点での2010年予測値を大幅に超える実績となっています。

特に国内旅客は2001年の予測では370万人であったのに対し、2010年の実績は803万人となっており、2倍以上の差異があります。急増する国内線需要も考慮に入ると近い将来に利用者が2000万人になることが予想されます。

現在タンソンニャット国際空港には3800mと3048mの2本の滑走路があり、これら2本の滑走路は2000万人の旅客を処理するために十分な能力がありますが、駐機スポットは2000万人に対応するためには十分とは言えず、今後再配置又は拡張が必要となります。



ターミナル建設の記念碑

●新たな空港の必要性

タンソンニャット国際空港はホーチミン市内に位置しており、周辺の急速な市街地化に伴い騒音問題なども深刻化してきており、予定を上回るペースで拡大する航空需要に対応して拡張することは困難となってきています。

また、タンソンニャット国際空港では2011年4月の時点で、週542便(出発便数)の国際定期便が就航しており、1日平均77便の出発便が運行されています。出発便のピーク時間帯は10時台が9便、更に到着便も8便が運行されており、17スポットが国際線旅客機で占有される状況になっています。国内線では1日に108便(出発便数)が運行されており出発便のピークは朝6時台に16便、また到着便のピークは9時台の12便となっています。

そこでベトナム政府は、南部の空港を管理運営している南部空港会社 Southern Airport Corporation(SAC)に対して新空港の建設可能性の調査を実施するように指示し、2003年に最終報告書が提出され、ホーチミン市から東に約35kmの場所に位置するドンナイ省ロンタン地区の5km×10kmの用地が候補地として選定されました。

現在ベトナム政府は2020年を目処にロンタン国際空港を建設することを予定しており、2010年12月にはSACが日本空港コンサルタンツ(JAC)にロンタン国際空港のマスタープラン調査を委託しており、計画としては2020年を目処にロンタン国際空港を運用開始し、2035年あたりまでタンソンニャット国際空港との併用を行う予定です。

タンソンニャット国際空港における時間別発着状況

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
国際線到着																								
国際線出発																								
国内線到着																								
国内線出発																								

A 国際線到着 D 国際線出発 A 国内線到着 D 国内線出発

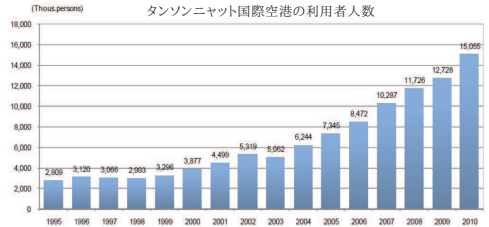
タンソンニャット国際空港における空港需要

年	旅客者数 (単位:千人)			カーゴ (単位:千トン)			航空機の離発着数 (回)		
	国際線	国内線	全体	国際線	国内線	全体	国際線	国内線	全体
1995	1662	1147	2809	30	13	43			
1996	1836	1284	3120	41	26	67			
1997	1761	1305	3066	49	19	68			
1998	1714	1274	2993	45	20	66			
1999	2031	1265	3296	51	18	69			
2000	2372	1505	3877	60	22	82	18574	13662	32236
2001	2657	1841	4499	68	34	102	22262	16259	38521
2002	3199	2120	5319	92	41	133	25469	19120	44589
2003	2898	2164	5062	113	46	159	24413	19803	44216
2004	3726	2517	6244	130	54	184	30340	23287	53627
2005	4312	3033	7345	133	63	196	32740	26503	59243
2006	4865	3608	8473	147	73	220	35360	28629	63989
2007	5603	4684	10287	175	80	255	40270	35157	75427
2008	6068	5658	11726	192	86	278	44674	41720	86395
2009	5942	6786	12728	180	103	283	44140	50335	94475
2010	7025	8030	15055	228	120	348	48944	60468	109412

年間平均増加率

年	国際線	国内線	全体	国際線	国内線	全体	国際線	国内線	全体
1995~1990年	5.10%	2.50%	4.10%	13.80%	-0.50%	9.20%			
2000~2004年	12%	13.70%	12.70%	21.40%	25.50%	22.50%	13.10%	14.30%	13.60%
2005~2010年	10.3	21.50%	14.4	11.4	13.7	12.1	8.4	17.9	13.1

出所:SAC



次号(後編)につづきます。



取材協力、資料提供: JICAベトナム事務所
日本空港コンサルタンツ(JAC)